

社来女性人の歩き遍路 など心の接待 お母国に伝えたい

「遍路をきっかけに四国とフランスの文化交流を図りたい」と話すベルトさん―四国新聞社



遍路をテーマにしたアートプロジェクトを計画しているフランス人の映像作家エミリ・ベルトさん(32)が、歩き遍路の道中に来真。18日、高松市中野町の四国新聞社を訪れ「信仰の深さやお接待の心などを母国に伝えたい」と語った。

ベルトさんは、かつて松山市に住んでいたことから、今年に入って四国の魅力を母国に伝える「八十八

アートプロジェクト」を立ち上げた。まだ、何ができるか白紙状態のため、具体的な構想を練ろうと3月下旬に来日し、4月上旬に松山市から歩き遍路を始めた。

白装束で初の歩き遍路に挑んでいるベルトさんは、「見ず知らずの人たちからあいさつやお接待を受けてうれしい」と笑顔。来日前に発生した東日本大震災についても触れ、「両親は来

日に大反対したが四国は安全だと分かった。帰国したらしっかり状況を伝えたい」と話した。

5月末までに八十八カ所巡礼を終える予定。帰国後は、四国の魅力をブログを通じて世界に発信するほか、7月にはパリの国立ギメ東洋美術館で報告会を開く。